

「馬場小室山遺跡フォーラム」第80回ワークショップ

【 原動力！パブリック・アーケオロジー2017 】

馬場小室山遺跡のパブリック・アーケオロジーからみえてきた現代社会との「かかわり」と未来への新たな挑戦

＜馬場小室山遺跡研究の新展開—縄文塚(「環提土塚」集落)の遠隔生業往還と広域流通社会からの大転換とは?—＞

馬場小室山遺跡研究の新展開では限界(知識・経験・思考・領域等)からの知的解放を目指します!

新展開1	「ムロさま」の 「限界領域」打破 (墓場の公共性にみる墓式と葬式の真相)	馬場小室山遺跡「第51号土壇」から展望する縄文時代の葬墓式と「土器社会論」—「ムロさま」の「累積型改新土壇」と「積葬墓」から探る「追葬型集積土器棺墓」への途— (ムロ1) 寺野東遺跡の「積葬墓」(「SX036埋設土器遺構」)に注目 (ムロ2) 青森県の「再葬壺棺墓」/ 列島晩期の再葬動向/ 「金田一型土器棺墓」/ 土井ヶ浜遺跡の「弥生再葬墓」 (ムロ3) 福島県鳥内遺跡の晩期終末の「追葬型集積土器棺墓」と弥生時代前期の合口土器棺による「積葬墓」の土器社会論 (ムロ4) 鳥内遺跡の弥生時代前期から中期初頭の「追葬型集積土器棺墓」に観る北方砂沢式系文化から「御代田式」へ、そして中部条痕文系土器による交替劇の様相 (ムロ5) 中部から北関東西部における前期の再葬壺棺墓から中期初頭の本棺墓への移行を「阿武隈文化」と比較し、東関東や南奥と関係の深い前期の再葬壺棺墓として田川流域の栃木県芝工業団地内遺跡の様相を把握する。
新展開2	「オムちゃん」から 「ムロさま」への 「限界知識」打破	土偶から土面/ 顔面付土版/ 人面文土器等の関係、そして容器形土偶/ 顔壺へ (オム1) 泉坂下人面イデオロギーの拡散ネットワーク (オム2) 「人面文インダストリー論」による亀ヶ岡型変相イデオロギーの出現 (オム3 予告) 「ムロさま」から再葬壺棺墓の顔壺へ
新展開3	「シオ(塩)もん」の 「限界経験」打破	「製塩土器」の確立から製塩遺跡の操業へ、爆発的普及の晩期社会と「定住制」の定着 (シオ1) 定住制社会から生業往還としての製塩遺跡へアプローチ (シオ2) アマモやヨシ(アシ)の「草木灰」は濃縮工程での使用か? (シオ3) 製塩遺跡の操業タイプ(短期型と長期型)と燃料問題 (シオ4) 下布田遺跡の「製塩土器」在地性は古鬼怒湾型変遷との乖離現象にあり! 枯れたアマモを特定の場所に集めて乾燥させる「塩草場」の存在、及び天日と地熱(熱砂)利用の採鹹工程に相応しい「製塩土器」鉢形態の確立 (シオ5) 宇都宮市刈沼遺跡からは寺野東遺跡よりも多数の「製塩土器」が検出。鬼怒川流域の口縁部形態は下布田遺跡とは大きく異なり、古鬼怒湾型変遷の1系列である口縁部水平ヘラカットが定着
新展開4	「タマきみ(君)」の 「限界思考」打破	ヒスイ製勾玉・小玉の晩期流通(関東各地域拠点でも製作)と弥生時代中期中葉「再葬壺棺墓」への流通実態(上越周辺北信経由)解明 (タマ1) 熊谷市飯塚南遺跡の土壇出土ヒスイ製勾玉と飯塚遺跡群 (タマ2 予告) 長野県坂城町保地遺跡の抜歯人骨とヒスイ製垂飾品の年代

1. 【馬場小室山遺跡のクリーンアップと青空考古学教室】：今年のインスレーションと来年に向けての検討

- ・毎年5/4(みどりの日)に行っている「馬場小室山遺跡のクリーンアップと青空考古学教室」のチラシがマンネリ化していますので、ここにインスレーション記録を組み込み、市民協働の場としての象徴となるデザインにしたい。特に将来を担う子供たちへの良き思い出となるように、県史跡・馬場小室山遺跡の活用を検討したいと思います。
- ・かつて「縄文スリバチ広場」を取り囲んだインスレーションが映像化されましたが、今回は「縄文塚」に脚光を浴びせたいと思います。この希望に対し即座に井山紘文氏から一列縦隊の体制で「縄文塚」から「縄文スリバチ広場」までの高低差を、飯塚邦明氏からは身長順に上から下へと整然と並ばせたい、とのアイデアが寄せられました。このチラシ制作が今から楽しみです。では、来年は?

2. 【埼玉大学有機農業研究会支援】：『見沼たんぼ見どころガイド2017』の配布と解説

- ・さぎやま記念公園で行いました第75回ワークショップで埼玉大学有機農業研究会(顧問・本城昇名誉教授)が紙芝居や寸劇、そしてジオラマ解説などで縄文時代と馬場小室山遺跡を紹介しましたが、今回、さいたま市みどり推進課見沼田圃政策推進室から刊行されました『見沼たんぼ見どころガイド2017』に10頁にわたりその内容が掲載されました。特に注目すべきことに理工系学生の瑞々しい感性により飯塚邦明・一恵ご夫妻による保存運動もキチンと取り上げられていますので、2004年当時の苦悩・

苦労がようやく過去の出来事として客観化されるべき時間が経ったということなのでしょう。

3. 【「山田湾まるごとスクール」】：第4回「山田湾まるごとスクール」記録集と2017年度計画

・第4回「山田湾まるごとスクール」の特徴は大きく3点あります。**1点目**は山田史談会にもお声がけして行っている**川端弘行コレクションの整理活動**で、今後も継続していきます。**2点目**は大浦仮設住宅の方々との交流で、今回は齋藤瑞穂さんが**大浦仮設住宅の方々とともに記録と記憶による明治三陸地震津波被災後の住宅復興の歴史**に成果を得たことです。この研究は今後の中核的な柱として**川半貝塚も射程に入れた人類史**として展開が期待されます。**3点目**は新たな交流として同じさいたま市の「宮北会」との縁で**北浜老人クラブ**の事務局長宅を訪問し、3・11の経験談をお聞きし、改めて身を引き締めました。この地区は房の沢古墳群に代表されるような**蝦夷の先史文化**に特徴が見られますので、五十嵐聡江さんに実態を解明して頂き、その成果を寸劇シナリオ（「**房の沢蝦夷(えみし)ものがたり**」）として収めできれば、と考えています。

・2017年度交流計画は第5回「山田湾まるごとスクール」を9/1(金)～9/3(日)を第1案とし、そのための調整や準備のための現地行を、6月第2週か第4週に予定しています。

4. 【学史:温故知新】：『アルカ通信』／「加曾利B式土器—E. S. モースと坪井正五郎のはざまで—」



<<第8回掲載の「加曾利B式」研究の原点とすべき茨城県椎塚貝塚の土器群>>

- 『アルカ通信』No. 136／第1回(2015-1-1) : 非歴史的な再構成の構え
- 『アルカ通信』No. 138／第2回(2015-3-1) : 羅針盤なき航海と新たなる地平
- 『アルカ通信』No. 140／第3回(2015-5-1) : 進化論の枠組みから社会論へ
- 『アルカ通信』No. 142／第4回(2015-7-1) : 西ヶ原貝塚はモースの近代化
- 『アルカ通信』No. 144／第5回(2015-9-1) : 土器片研究の指導方針・その1
- 『アルカ通信』No. 146／第6回(2015-11-1) : 土器片研究の指導方針・その2
- 『アルカ通信』No. 148／第7回(2016-1-1) : 土器片研究の指導方針・その3
- 『アルカ通信』No. 150／第8回(2016-3-1) : 椎塚貝塚の加曾利B式
- 『アルカ通信』No. 152／第9回(2016-5-1) : モースの層位論と遺物包含地
- 『アルカ通信』No. 154／第10回(2016-7-1) : 定量的選択と定性的相異の振り子
- 『アルカ通信』No. 156／第11回(2016-9-1) : 「椎塚形」とモースの土器区分
- 『アルカ通信』No. 158／第12回(2016-11-1) : **世界に伍する日本考古学の確立**
- 『アルカ通信』No. 160／第13回(2017-1-1) : モースの定量的選択と分類の曙光
- 『アルカ通信』No. 162／第14回(2017-3-1) : クロス土器と標本の新たな役割
- 『アルカ通信』No. 164／第15回(2017-5-1) : 椎塚貝塚の巨大深鉢と粗製土器

5. 【その他情報交換など】：自由な意見交換とワイン・アーケオロジー

5-1. 『さいたま・水とみどりのアカデミーⅣ 平成27年度講義要約』: 会費納入への御礼として配布中。

・弥生時代後期の武蔵野台地編年「久ヶ原1式」→「久ヶ原2式」→「久ヶ原3式」→「前野町式」に注目。

5-2. 見沼区小深作遺跡(加田屋川最奥部の縄文時代後晩期の集落)のその後について

5-3. 今後の予定

(1) 井山紘文個展(9月初旬 於: 柳澤画廊／詳細は別途)

(2) 飯塚邦明ジャズピアノ・コンサート(11/19(日)) 於: 浦和文化センター／詳細は別途

5-4. その他

以 上